

パッケージ商品に特化した簡単すぎる 3 DCG ソフト

株式会社 MDD クリエイティブ

黒瀬 克也

K. Kurose

Easy 3DCG Software Specialized for Package Items

In 2010, our company launched “MONOSATSU 3D” software which can create easily 3 DCG (3-D computer graphics) of package products. This software was highly evaluated even by the users who did not have a basic knowledge of 3D. However, several clients offered requests such as: “the software easily applied by anyone instead of a person in charge should be developed” “Automation will be preferable not to prepare many kinds of images every time”. Finally, the system has been established which requires only “Copy & Paste” without applying UI (user interface).

はじめに

食品などのパッケージ商品は、そのライフサイクルの中で、開発段階から、商品発表、販売、お客様サービスなどの各プロセスにおいて、用途に応じてさまざまな画像が用意される。一般消費者が目にするポスターやチラシの画像をはじめ、ホームページ上での商品紹介画像、卸業者を中心に棚割りに利用するための上下左右からの画像など、一つの商品のためにアングルや画素数の異なる多くの画像が必要だ。

それらの商品画像は、写真撮影なりCG作成なりを通じて、基本的にその商品のメーカーが用意するが、すべての種類の画像を体

系だってタイムリー（事前）に準備をしているメーカーは極めてまれで、多くが、必要に応じて担当者（部門）が応急対応しているのが実情だ。

1. Auto 3D とは

2010年にリリースした“モノサツ3D”(*)のエンジンを使い、商品のデザイン画像（展開図）をコピー（Copy & Paste）するだけで、あらかじめ決めた画像セットを自動的に生成するソフトウェアであり、下記の特徴をもつ（図1）。

- ・入稿用のフォルダーにデザイン展開図を入れて後は待つだけ。UI（ユーザーインター

図1 デザイン展開図から3DCGを自動作成

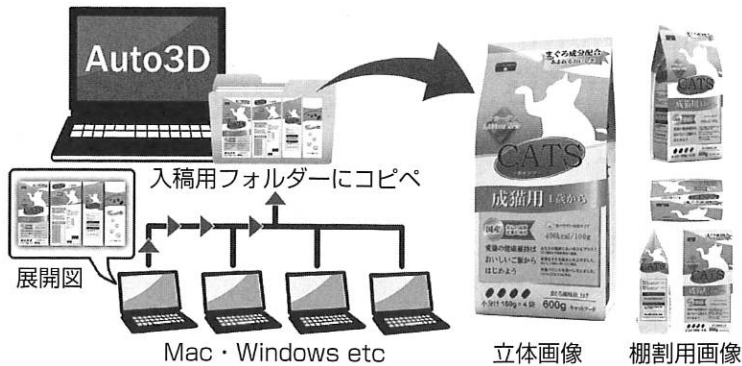


図2



デザイン画像提供：日本ペットフード株式会社様

図3



陳列画像の例

状(カップ・ボトル・缶・各種オリジナル形状等)も、カスタマイズにより実現。

コピーという極めて単純な作業ではあるが、Auto3Dが入稿画像を検知すると、あらかじめプログラミングされた手順に従い、中間生成物として3DCG用データを作成した後、必要な画像を順次出力フォルダーにはきだして行く。フォルダーへの入稿から30秒足らずで、最初の画像はできあがる。

・商品単品の画像(図2)

▶商品紹介用の高精細画像(任意の角度,画素数)

▶棚割りソフト用の画像(正面,裏面,天面,左右側面など)

▶各小売り業者固有の要求仕様に対応した画像

▶ウェブ用くるくる回せる疑似3D画像

フェース)なしのソフトウェア。

・Auto3D自体はWindows(7, 8, 10)上で稼働するが、ネットワークに繋がっていれば、Macからも起動可能。

・箱,袋,パウチ,ガゼットのような軟包材パッケージは展開図から寸法を読み取り3次元CGモデルを生成。他のパッケージ形

上記のような商品単品の画像はもちろんだが、カスタマイズによっては、新製品発売の際のキャンペーンのための売り場提案画像や、POPなどと組み合わせた陳列提案画像なども一括で作成することが可能となる。

・陳列提案用画像(図3)

▶棚やPOPなどと組み合わせた陳列提案

用画像

▶実店舗の写真を背景に“売り場再現画像”

2. お客様の声

実際に Auto 3D をお使いのお客様からは、おおむね好意的な評価をいただいている。乳業メーカー A 社「客先（小売り）から要求される画像が雑多で、対応に苦労していたが一括で処理できるので手間がかからず間違いもなくなった。今後 Auto 3D なしでの運用は考えられない」、乳業メーカー B 社「デザイン部は全員 Mac ユーザーなので、コピペだけで全く Windows を意識することなく使えるのはうれしい」。ペットフードメーカー C 社「誰でも使えて、同じ品質の画像がほしい時にすぐにできるのでとても役立っている」。

ただし、Auto をうたう以上、期待通りの動作と再現性が必須であるが、極めてまれではあるものの、ある条件が重なった時に上手く起動しない問題点や、とあるリモート環境下でデザイン画像のマッピング（貼り付け）に不具合を生じる問題などが露見した。幸い、すべての既知の問題は根本対策もしくは回避策を講じて、日々活用いただいているが今後とも高い稼働率を維持するには、客先のネットワーク環境や、Auto 3D 搭載の PC ハードウェアにも依存するので、顧客との密な連携を取りながら改善と安定稼働に努めたい。

3. 最後に

パッケージ商品の 3 DCG とは端的には“形のあるものにデザインを貼り付ける”ことだ。

その点で、今回の Auto 3D の開発をもって、“デザインを貼り付ける”という作業の自動化・大衆化には大きく貢献することが可能となったと思っている。ただし、“形のあるも

の”という大前提は、いまだ課題として残っている。一部の軟包材パッケージなどの形状は展開図から逆算して推定できるが、ユニークなパッケージ形状に対してはモデリング（立体造形）という負荷の高い作業がどうしても必要になってくる。その部分を効率化していくためには、いわゆる容器メーカーの理解と協力が必須だ。もちろん CAD データまでは必要ないが、形状を定義したポリゴンと呼ばれる 3D データだけでも提供いただけると、モデリング負荷は大きく軽減する。是非とも、パッケージ商品の消費財メーカーと容器メーカーと連携して、容器の 3D データが、パッケージ商品の 3 DCG データに活用される流れを作りたいと思っている。

将来的には、パッケージ商品を陳列する什器のメーカーから什器の 3D データも提供されるような時代が来れば、それこそ現実味をもった陳列のシミュレーションや、棚割りの提案が可能になるはずだ。3 DCG のデータは流通してこそその価値が最大化することを肝に銘じて、今後とも研鑽を重ねて行きたい。

(*) モノサツ 3D

当社が 2010 年に発表したパッケージデザインに特化した 3 DCG レンダリングソフト。食品パッケージなどでよく使われる形状が、あらかじめ用意されているので、ユーザーはデザイン画像を用意するだけで簡単にパッケージの 3 DCG が作成できる。

参考文献

- 1) 食品パッケージデザインに特化した 3 DCG リアルタイムレンダリングソフトウェアの開発 (Annual Design Review of JSSD No.20 2014 デザイン学研究作品集)